

「PES」建築環境設計 創立50周年記念にむけて

元RIA建築総合研究所 名古屋支社長
久米 幸一



創立50周年、お芽出度でございます。

想へばあれから50年、私も卒寿を迎える歳となり、あの頃を思い出しながら懐いています。「PES」の石黒さんと初めてお逢いしたのは今はなき中日ビルの8階。RIA建築総合研究所 名古屋支社の応接室であったと思います。その時の印象は、背スジの伸びたモダンな好青年でした。それは、先進技術の米国で建築設備関係の仕事にたずさわっていて、帰国したからかも知れませんが・・・。

その時から「PES」さんに設備計画設計のパートナーとして参加していただきまして。

以来50年、長きに渡りご協力いただき深く感謝しております。

あの頃は、田中角栄さんの「日本列島改造論」により土木建設業界は、右肩上がりの活況を挺していて、RIAも都心改造のための再開発事業推進に取り組んでいました。

富山市総曲輪地区再開発事業（組合施工、全国第一号）は、事業推進計画から完成まで、10年余の長丁場の仕事で「PES」さんも初めての事で、戸惑ったことと思いますが・・・。

よくぞお付き合い下さいました。

この当時の建築は、庁舎、公共施設の整備が急がれていた。

その設計者の決定は「競技設計（コンペ）」方式がとられることが多く、RIAも参加していました。豊根村庁舎、三ヶ日町庁舎、刈谷市産業振興センター等は、コンペによって受注出来ました。その折の設備部分は、PESさんからの提案が一助となったと思っています。当時は（今でも？）昼間の電力需要が増大となり、夜間電力の利用が課題となっていました。何とか建物内でと考え床下空間（基礎梁廻り）の活用に着目し、夜間電力利用の蓄熱槽や、蓄電池層等の検討が行われていた。

又、電力への集中化の軽減策として「ガス燃焼空調機？」による空調設備が提案されていた。電力への集中化問題を考えると先見性があったのか？とも思っています。

又、豊根村庁舎、の暖房用熱源に木材炊きボイラーを提案し油からの脱却を考えていた。

又、PESさんの独自の取組みで、印象に残っているのは、建築物（設備関係）の健康診断？を行っていることでした。特に工場等の電力契約容量が使用実態を考えると多く無駄な基本料金を支払っている場合があるとのことでした。

あの頃から半世紀すぎた現在社会は、多くの課題をかかえています。

「コロナの蔓延」「自然災害の多発」「地球環境の変化」等々これ等と建築は大きく関係しています。特に建築設備への期待が高まっています。

「PES」さんには、優れた、先見性を生かし大いにご活躍下さい。

期待しております。

2022.7. 24 久米